



八束 正 議員

## Q. 農業対策の拡充を A. 積極的に推進していく

**問** ① 国の農業施策「人・農地プラン」の推進と、町単独での支援対策は。  
② 地産地消への取り組みや、松前町のブランド化に向けた取り組みは。

**答** 産業課長

① 農業委員会定例会や広報まさきで周知するとともに、県との共同開催による「人・農地プランをつくるうきゃらバン」で集会所に向いた説明会を5地区で開催し、プランの推進に努めた。

東古泉では、青年就農給付金に該当する新規就農者があり、プランの原案を作成中。計画をしている地区もあり、今後も積極的に推進していく。町単独支援として、町内小・中学校の給食で使用している町内産の米に、松前育ちと一般米の差額に対して支援をしている。



新鮮なレタス栽培もその一つ

また、農業に対する事業や協議会の活動にも支援をしている。

② 商工会が中心となり、毎月ふれあい広場で朝市を開催。まさき村を初め、岡田、北伊予の生協やエミフルなどで、地元食材コーナーがある。また、給食センターでも町内農家の野菜を積極的に取り入れている。ブランド化については、減農薬で栽培したヒノヒカリを松前育ちとしてブランド化し、

各生協で販売している。松前町産業連携推進協議会を設立した。今後も地産地消や地域ブランドの創出、イベントの開催など、町内地場産業の振興に努める。

### 問 JR貨物基地計画

① 現在、北伊予地区においてJR貨物基地整備が行われているが、地域住民への対応は。

② 通過する列車の本数の増加で踏切が開かずの踏切の懸念、集団登校の通学路の確保、貨物列車洗車での地下水の低下、JRアクセス道路の周辺整備など、町の対策は。

### 答 地元と協議しながら実施している

産業建設部長

① 鶴吉、神崎、出作の3地区には、事業に関する対策などの委員会がある。地元要望などの推進については、県、町と委員会で協議しながら事業を実施している。今のところ関係事業に特に問題は無い。

② 現在100本程度の通過列車が160本程度に増えるが、増えた列車は最終列車通過後の回送列車のため、昼間の踏切や子どもたちの通学には、ほとんど影響はない。また、通学路の確保に向け北伊予踏切周辺に工事を計画している。自由通路についても、北伊予駅のホームを飛び越える形で東西をつなぐよう、現在、JR側と協議している。JRアクセス道路については、県道八倉松

前線と伊予川内線を結ぶ整備、踏切周辺の道路整備及び基地の外周道路整備を行っている。町の方では、国、県の補助を受け周辺の水路整備を行っている。水利用については、現在のところは詳細な計画が出ていない。



これからの北伊予線駅周辺の整備は？